

◆◆在宅医療やケアに関するアンケート◆◆

I. 在宅療養支援やケアの現場で困難に感じておられることをご記入下さい。

- ・他職種との情報共有
- ・薬剤師に外に出る余裕があまりなく、在宅医療の対応に苦慮する点。今後数多くなって行くことも対応を検討する必要が私どもにある。
- ・顔が見えないコメディカルがいる
- ・終末期ケアだけでなく治癒困難な難病患者や家族に対する対応、コミュニケーションなどのスキルに関することなど
- ・諸手続きや利用可能なサービスなどに関する知識など
- ・残薬確認がスムーズにいく場合ばかりではありません。薬を 1 か所にまとめて置いてあれば良いのですが、時には家のあちこちに分散していたものが後から出てきて前回よりも残薬が増えてしまっているということがあります。家探しをするわけにもいかず、どうしたものかと思っています。
- ・介護保険認定を受けていない独居患者様の薬管理
- ・通常業務との両立

II. 医療(病院・開業医・薬剤師・訪問看護など)との連携で困難に感じておられることをご記入下さい。

- ・グループが立ち上げられている症例では診療、看護、介護等の記録が情報共有が容易にできて大変助かっているが、グループが立ち上げられていない症例でのそれぞれの情報共有が難しい。
- ・急な体調変化による薬の急配（すぐ店を出れない時間帯がある）（医師の商法のタイミングのかねあい）
- ・お互いがどのような仕事をされているか、わかっているようでわかっていない。薬剤師の立場でいえば、じょくそうケアの実際の作業とか、吸痰時の注意とか自分がするわけではないが、相互理解のひとつとしてわかっていると役立つはず。
- ・グループの導入以来、多職種の皆様の書き込みを自分の都合のいい時間に見ることができることで非常にスムーズになったと感じています。在宅支援の中心となる医師の加入が今後もっと進むことを期待します。
- ・お互いに時間が忙しくて顔を合わせるのが大変なこと
- ・人手不足

III. 他の職種との連携で困難に感じておられることをご記入下さい。また、誰(どの職種)に何を要望するのか等についてもご意見等があればご記入下さい。

- ・上記回答と同様です。何か良いシステムができないでしょうか。
- ・それぞれのコメディカルの役割とその調整をケアマネさんのみにまかせてよいのか
- ・薬剤師が訪問するにあたり、まだまだ歴史が浅いわけです。それぞれの施設、

それぞれの薬剤師でやることできることが違うと思います。薬剤師は自分から動くのが苦手な職種ではないかと感じます。個々の在宅事例で必要なことをどんどん要望していってもらいたいと思います。経営者側にとってはしづしづでも、新たに始めることが大切でしょう。

・ヘルパー訪問看護ともよりスムーズに連携がとれるよう薬剤師側からもっと努力する必要あり。

IV. 新川地域在宅医療療養連携協議会に期待すること、また、その運営方法等に関してご意見があればご記入下さい。

- ・運営方法は良いと思います。
- ・新川厚生センターや役所と連携を密にとってほしい。
- ・コメディカル同士の顔の見える関係
- ・協議会におかれましては活動を継続的に行っていただければと思います。
- ・各施設にもっとせんじょううちネットの導入を促してもらいたいです。

V. コメディカル部会に期待することをご記入下さい。

- ・コメディカル同士の横のつながりがスムーズにいくような施策を企画してほしい。
- ・医師との連携するにあたり、医師もコメディカルも動きやすくなるよう期待
- ・患者さんのためにできる事をチームでさらに追求していきたい
- ・例えば Ns→Ph 実際の看護作業をレクチャーしていただき、薬はこのようにしてもらうと助かるとか。店にこういった材料、衛生用品を販売、在庫してほしいなどの意見をうかがいたい。

Ph→Ns この薬はこういうところに注意してほしい。保管をこうしてください。などレクチャーしたり、薬の疑問点に答える場を持つといいのではと思う。

- ・職種の枠をこえた情報、知識の共有
- ・新川地区でケア・カフェを開催してほしい。
- ・経験のない（少ない）ところへの相談にのりアドバイス等いただけたら幸いです。

◆業種(所属) 4 調剤薬局

◆職種(資格) 2 薬剤師 8 件